

麦の穂

第37号 2010年 6月

題字(あ)

NPO法人麦の会



〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町17-1 TEL-FAX(022)

E-mail: muginokai@k5.dion.ne.jp

299-1279

http://www.web-i.ne.jp/ea0098

第27回NPO法人共同連全国大会にご参加を

2010年8月28日(土)・29日(日)開催、仙台サンプラザにて

飯嶋 茂

大会を2ヶ月後にひかえ、内容も固まりました。

多くの皆さんに参加して頂ければと思います。大会には県内外から500～600人程度の参加を見込んでいます。「共に生きるとは」「共に働くとは」「社会的事業所の可能性とは」等、多くの皆さんと議論し、様々な情報交換・交流し、有意義な大会にしたいと考えています。よろしくお願ひします。また、当日のボランティアも募集中です。

お問い合わせは、コッペの飯嶋まで

Tel & fax 022-299-1279

E-mail muginokai@k5.dion.ne.jp

仙台市宮城野区松岡町17-1

◇全体会(8/28) 13:00～17:45

①.特別報告：東 俊裕氏(内閣府障がい者制度改革推進会議担当室長)

「どうなる、これからの障害者政策と就労」

②.基調報告：齋藤 縣三氏(NPO法人共同連事務局長)

③.シンポジウム：「共に働き、共に自立できる所得を！」

～社会的事業所の可能性を明らかにする～

コーディネーター 花田 昌宣氏(熊本学園大学 社会福祉学部教授)

シンポジスト 田中 夏子氏(都留文科大学教授)

富田 一幸氏(株式会社ナイス 代表取締役)



武田 元氏 (はらから福祉会 理事長)

中崎 ひとみ氏 (がんばカンパニー 所長)

④交流会 18:30~20:30

◇分科会:(8/29) 9:30~14:15(途中休憩1時間)

第1分科会 社会的事業所分科会

コーディネーター 齋藤縣三氏 (NPO法人共同連事務局長)

発題者 石澤 利巳氏 (NPO法人 札幌障害者活動支援センターライフ)

松場 作治氏 (マッサクぐる〜ぶ) (大阪)

高橋 比呂志氏 (ピアサポートセンターそら) (宮城)

飯室 勉氏 (仙台ダルク代表)

第2分科会 共生共働分科会

コーディネーター 花田 昌宣氏 (熊本学園大学 社会福祉学部教授)

発題者 齋藤 亮人氏 (わっぱの会) (名古屋)

高野 律雄氏 (たつか一む) (北海道)

岩間 有希氏 (あしたや共働企画) (東京・多摩)

小石沢 邦彦氏 (はらから福祉会 蔵王すずしろ)

第3分科会 事業振興分科会

コーディネーター 中崎 ひとみ氏 (がんばカンパニー)

発題者 高橋 祐一 (はらから福祉会 くりえいと柴田)

横田 健二 (株式会社ヨコタ東北 取締役社長) (山形)

白木 福次郎氏 (NPO法人ほっぷの森理事長)

横山 仁司氏 (社会福祉法人 伊勢亀鈴会) (三重)

第4分科会 生活支援分科会

コーディネーター 井上 朝子氏 (CILたすけっと)

久田 公子氏 (はらから福祉会)

発題者 久井田 幾世氏 (ピアヘルプグループをつくる会準備会)

川畑 昌子氏 (CILもりおか代表)

沼田 洋平氏・大畠 貴司氏 (社会福祉法人つどいの家) (仙台)

野口 俊彦氏 (自立生活センター立川 代表)

白杉 滋朗氏 (おおつ障害者就業・生活支援センター) 滋賀県

第5分科会 共育分科会

コーディネーター 遊佐 美由紀氏 (宮城県会議員)

発題者 片桐 健司氏 (小学校教員、障害児を普通学校へ全国連絡会)

伊勢 理加氏 (親・石巻)

及川 智氏 (CILたすけっと・障害当事者)

鶴田 康子氏 (親・名古屋)

第6分科会 障害者権利条約

リーダー 鈴木 絹江氏 (福祉のまちづくりの会)

杉山 裕信氏 (CILたすけっと)

平間 みゆき氏 (JIL人権委員)

第7分科会 ワークショップ「やさしい“わ”ミーティング」

ファシリテーター 永田 千砂氏 (ちまちま工房 大阪)

渡辺 ゆりか氏 (なごや障害者就業・生活支援センター)

松本 祐一氏 (宮城県大崎市)

◇特別企画 (8/29) サンプラザホールにて

9:30~12:00 『君こそスターだ!!共同連カラオケ大会』

13:00~14:00 『お笑い集団ティーライズ お笑いライブ』

15:15~17:15 『やればできるさ』 上映会

イタリアにまだ社会的協同組合法が生まれる前の1980年代、ミラノを舞台に、ある労働者協同組合が社会的協同組合へと生まれ変わる姿をダイナミックに描いている。

◇参加費：3,500円 交流会費：4,000円

◇主催：第27回共同連宮城大会実行委員会

NPO法人 共同連

総会報告

飯嶋 茂

第11回麦の会総会は、5月22日(土)、みやぎNPOプラザにて行ない、事業報告、決算、事業計画、予算とも承認されました。

今回の総会においては、特に障害メンバーの雇用に関して議論が出され、終了時間が予定より1時間も延びました。このことは、これまで、目標でしかなかった「雇用」をやっと現実のものとして考えることができるまでになった、ということです。

結論としては、継続審議になりましたが、参加された皆さんから、多くの意見が出されたことは非常に良かったと思います。

コッペは、現在、雇用を伴わない「就労継続支援B型」という事業体系です。しかし、コッペが大切にしてきた「共に働く」を考えた時、雇用をどうするのか。いろいろな障害がある中で、「共に働く」の中身をどう考えるのか。それを再度、みんなで考え合いながら、方向性を見つけていこうと思います。

以下、事業報告の抜粋を載せます。これからもご支援をよろしくお願いします。

2009年度事業報告

【1】就労継続支援B型「コッペ」の運営状況

2009年度もフルハウスグループの一員として、すまいる作業所との小規模多機能施設の形態をとり、就労継続支援B型の事業体系で運営を行なってきた。

コッペの定員としては、15名。在籍は2名増え、定員と同じ15名になった。

それを支えるスタッフは、常勤4名、パート6名である。それにコッペショップを支えるメンバーの方々、区役所販売等を手伝っていただけるボランティアの方々等に、コッペの運営に協力して頂いた。

②売り上げ

パンとクッキーの売り上げは、約2,219万/年(仕入れ販売を含む)。月平均184万。2008年度の売り上げ2,299万に比べ80万/年ほど下がった。ちなみに2007年度の売り上げは、2,016万である。その下がった80万強が収支決算での赤字になっている状況である。販売に向けていろいろ努力はしたが、長期的な経済不況の影響はコッペにもでてくる。例年2月は売り上げは落ち込むのだが、特に2010年に入って1月2月の売り上げは良くなかった。

③訓練等給付費収入

人が増えたことと、報酬単価も加算が認められ上がったことで1,600万円強になり前年度に対して390万円ほどあがった。小規模作業所時代は、960万であるから、それに比べると大きな額になっている。ただ、本当に安定した運営をするには、これでもまだ足りな

い数字である。現状の給付費の算定は日割り計算であり、欠席者がいるとそれだけ収入が減ることになる。

④工賃

障害メンバーの給料は、最高で7万、最低1万、平均約4万円となっている。昨年度と比べややアップしている。

⑤コッペショップ

今やコッペのもう一つの顔として存在感を深めている。年2回のセールのほか、ホワイトデー企画としてクッキーの長期セールも行った。

⑥衛生管理

今年度大きな異物混入事故を1件出してしまった。これまでも異物混入に対しては色々な対策をとってきたが、今後とも改善するところは改善していきたい。

⑦余暇

コッペも加盟している平成商興会の食事処「いちえ」さんから食事会のご招待をいただいた。なにかお役にたてることがあればというありがたいお申し出で、地域の方からこのようなお話があったことは非常にうれしいことである。

【2】理事会

8月・10月を除き、月1回、計10回おこなった。コッペでは、みんなで運営を考えていこうというスタンスで、理事会には都合がつく限りみんなに参加してもらっている。その中で忌憚のない意見が出されればいい。今年度の理事会では、かなり白熱した議論ができたのではないと思う。今後ともできるだけお互いに意見を出し合ってよりよい方向を考えていきたい。

なお、創立当初よりコッペに関わり、長年スタッフとしてコッペで働き、理事も務めてきてくれた大友さんが今期限りで退任することになった。長い間お世話様でした。

【3】会員（3/31現在）

正会員 27名 賛助会員 60名 計87名

販売をする上での会員は以下のとおりである。こちらはいずれも増やす努力を続けていきたい。

サポーター会員（3名増） 44名

おたのしみパン会員 火曜 29人 木曜 14人 金曜 16人 計59人

【4】社会教育の推進

会報「麦の穂」の発行 計3回 それぞれ170部前後

【5】共同連大会に向けて

2010年8月28日・29日に行われる共同連全国大会に向け、2009年11月に実行委員会を立ち上げた。8月に向け皆さんにもより多くのご協力をお願いしたい。

【6】みやぎアピール大行動への参加

みやぎアピール大行動へ、今年も参加した。障害者自立支援法は、廃止の方向が出された。現在、障がい者制度改革推進会議が開かれ、今後の施策の方向性について議論が行われている。このことは、私たちの活動の大きな成果である。しかし、まだまだその方向がどこへ向かうのかは不明朗である。私たちが望む制度を実現するために、これからの運動が重要になってくる。今後もアピール大行動を始め、多くの団体と協力し運動を押しすすめていきたい。

【7】ではっぺ薬師堂

NPO法人フルハウスとして、授産施設等活性化事業の補助を受け、県の委託事業として運営している。

【8】NPO法人フルハウスとの連携

コッペの直接の運営母体は麦の会であるが、障害者自立支援法上は、NPO法人フルハウスが運営するフルハウスという小規模多機能施設となっており、訓練等給付もフルハウスを通じて入ってくる仕組みとなっている。

当然のことながら、NPO法人フルハウスを構成するフリースペースソレイユとすまいる作業所とともに、フルハウスグループの一員として協力している。

フルハウスを立ち上げた要因は、法律上の定員問題があった。施設の最低定員が20名以上であり、単独では給付事業に移行できなかったわけだ。

しかし、移行した成果として各事業所とも単独で定員を20名以上にすることができるようになった。そのような状況の中で、すまいる作業所が、NPO法人フルハウスを離れ、独立することになった。すまいる作業所は、もともと障害児の放課後ケアを行っているNPO法人コスモスクラブと関係が深く、独立後はNPO法人コスモスクラブのもとで、就労継続支援B型と生活介護を行うことになる。

これに伴い、すまいる作業所とコッペの小規模多機能の関係は解消されることになった。













今後は、コッペも単独で定員20名の就労継続支援B型事業所として運営していくことになる。障害者自立支援法での運営母体は、NPO法人フルハウスであるが、名称は自立支援法上もコッペとなる。

すまいる作業所とは今後とも販売等での協力関係は続けていきたい。

ソレイユは、新しい建物も完成し、働いている人も増えた。ただ売り上げは、お客さんでマイ弁当を持ってくる人が増えたということで、ここ数カ月か苦戦している。水曜日にもお弁当を宅配する方向で検討中である。

ソレイユとは今後も月1回のフルハウスの会議の他、ソレイユ祭りへの参加、合同学習会の開催、互いの商品の販売等、今後も連携を深めていきたい。

♪ 6/6(日)に開催された第10回の『とっておきの音楽祭』のさいとうまんの
レポートです。

いよいよ待ちに待ったとっておきの音楽祭
の日がやって来ました。
私は、「早く歌いた〜い」って気持ちで
うきうきドキドキしてました。
あちこちで知りてる人にも沢山
会えて、凄く嬉しかったです。
せんだい組のステージ発表では
オレンジグループでした。
歌はまねきねこだく&サリーちゃん
を歌いました。目の前にコッペの人
が3人見に来てくれたので「ちょっと」
はずかしかったです。でも来てくれて
嬉しかったです。
あと、ジョイフルの曲に合わせておどり
ました。凄く楽しかったです。糸冬たら
福島友達に会いました。嬉しかったです。

『コッパ職人』さんたちの、つぶやきです。

パン型をぬりました。
シールをはりました。
壹岐良康

金太郎
氏家大介
コンテナ互い車
本物はカクイ—!

白日本一
後藤立清

NPO 法人 麦の会



編集後記

もうすぐ、暑い夏かぞえて来ますね。

暑い時には、ビールにコンゴウルで
乗りかわりましょう!! by キムチ